

参加者

伊東、田中、中島、岬(茂)、
並木、松田、町田、山岡、遊、
秋元、横井(今月より会員)

BMW RS Club

May 10, '98

道志村から八重桜の山中湖へ回り
高村美術館で教養を高めた一日

かわらばん

風薰る五月晴れの空に初夏の風を一杯にはらみ、鯉のぼりが勢いよく泳ぐ姿が五月のイメージですが、今年は雨模様の日々が多く、早くも梅雨入りをしたかのような嫌な感じのこの頃です。

それでも熱めに沸かした風呂に菖蒲を投げ込み、爽やかな湯上がりに鯉のタタキを肴に、よく冷えたビールを飲むと、「沸きし湯に切先青き菖蒲かな」という中村汀女の句が思い起こされて、如何にも五月を迎えた気がしてきます。

前の日まで雨が残っていたのに、当日はやや曇天ながら予報では雨の気配はなく、集合地の中央高速「石川PA」へと急ぎました。途中で大きな花束を抱えた親子連れに行き交いましたが、考えてみると今日は五月の第二日曜日「母の日」で、フッと数年前に他界した母親を思い出しました。

連休中に金を使い果たしたか遊び過ぎたのか、天気は良いのに高速道路はガラ空きの状態で、いつもより早くに「石川PA」に着くと、鈴木さんは「車検切れ」とかで乗れず、吉村さんはバッテリーが上がったとか、そして鳥飼さんは大きなハーレーに乗って現れ、三人に見送られて出発しました。八王子の料金所で中野(茂)さん、町田さんそして松田さんが2本サスの初乗りで待機中。さあ~出発と飛び出すと、私がカールの中に付けていたパンク修理剤の紐が緩み、ハンドルがロック状態になって見事に転び、皆さんに助け起こされましたが、その事をしっかりと書くように、並木さんから強く言われました。こんなところでヨロシイでしょうか?

相模湖を左に見ながらアッと言う間に上野原ICに到着し、そこから道志村へ向かって走り始めました。都留の町に入ると絵に描いたような見事な富士が目の前に浮かび上がり、「道志6キロ」というサインを左折すると、いよいよ峠攻めにさしかかりました。大きな国産車に乗ったグループに尻から追われたりしながらも、最長老の町田さんも元気そのもので誰もが力づけられます。

道は段々と狭まりますが、ここは甲斐の国。甲斐とは山峡(やまかい) 山のはざまを意味する言葉だそうですから当然かもしれません。やがて眺望が開けて山中湖へ着きました。

右手に湖を見ながら湖岸に沿って進むと、周囲には八重桜が今を盛りと咲き乱れ、思いもかけずに来年まで待たず二度目のお花見をしました。気温17度のサインが出ています。

この湖の先に「高村美術館」というのが有って、そこに遊佐ちゃんが82年型フェラーリを展示してあり、我々はその車を磨くという名目で、一人当たり1,500円の入場料をロハにしてもらつて入りました。我々の生まれる以前の名車が、ピカピカに輝いて展示してあります。

その展示室を出て他の部屋に入ると、なんと横山大観や奥村土牛、川合玉堂、堅山南風などの作が惜し気もなく並び、アルヌーボー派の中人物エミール・ガレのガラス細工が照明の中に怪しげに光り輝き、徳富蘇峰の掛け軸まで有るのには本当にたまげました。富士の裾野の美術館だけに、大観をはじめとした富士山の名画ばかりが所狭しと並ぶ一隅は、唯々タメ息が出るばかりでした。

本当に素晴らしい日の保養をさせてもらい、これだけでツーリングに来た甲斐が有りました。私がなかなか出てこないので、腹の空いたメンバーはエンジンをかけてイライラしていましたが、いつまでも居たい気持ちでした。こんな処にこんなスゴイものが有るのに驚かされました。

その近くに「大豊」という麺類がメインの食事処が有って、早速ワカサギや白エビの唐揚げを肴に冷たい生ビールで乾杯。いや~その旨さに互いに顔を見合わせました。

ゆっくりと食事をして外に出ると、富士山がすぐ目の前に大きな姿を現して、我々を歓迎してくれているかのようで、先程の名画同様に何か浮世離れをした感じさえしました。

中野、町田、松田、そして秋元さんの四人が、中央高速へ行く為に河口湖方面へ下り、残りのメンバーは富士の裾野を巡って須走から246へ出ました。更に混みあう道を大井松田まで走り、そこから東名高速へと入り帰途につきました。

海老名SAへ寄ってから解散の予定でしたが、私はそのまま走って首都高速へ入り、文京区の本郷へ帰り着くと未だ4時を少し回ったところでした。

車を整備してからフロを浴び、茹で上がったばかりの天豆(ソラマメ)をつまみながら、五月場所の初日をユックリと観戦しました。とても心豊かな感じのした一日でした。

今日の幹事の田中さん、いろいろとご苦労様でした。そして素晴らしい美術館へご案内して下さった遊佐ちゃん。本当に有り難うございました。思いがけなく目の保養をさせて頂きました。